

原発事故の終息なしに、福島復興も日本の未来ありません。

2011年3月12日、福島第一原子力発電所で発生した、深刻な事故。その被害の拡大を何とか最小限に抑えようと、約50人の所員が、身の危険を承知のうえで、原発に留まりました。過酷な環境下における連日の作業。目に見えない放射線への恐怖。周囲から注がれる厳しい視線……。それらに耐えて、安全確保のために奔走した彼らの胸には、どんな思いがあったのでしょうか。

「命がけで闘う彼らに、日本人として感謝を伝えたい」「彼らの心を支えたい」。この思いに駆られた藪原秀樹さんは、事故発生から7カ月後、単身、免震棟へ飛び込みました。細い縁の糸をたぐり寄せ、ようやくつかんだチャンスでした。

できることは、たった一つ——「わもん」。自ら確立した精神修養法であり、あらゆる人と心の奥深くでつながりあうコミュニケーションの方法です。話し手の思いをありのままに聞き、否定も肯定もせず、ただただ受けとめる「わもん」。

この方法で聞きつづけてきた、所員たちの心の奥底にある声なき声、そして自らの体験と今後への思い。満身の力を込めて、ついに藪原さんが公の場で語ります。

この事故は、電力会社や福島だけの問題ではありません。高度な文明社会を生きる私たち日本人はもちろん、地球上のすべての人たちに、生き方、考え方の問い直しを迫る出来事です。藪原さんをはじめ、さまざまなかたちで被災地の復興支援に取り組む方々とともに、語り、聞き、学びあい、私たち一人ひとりがすべきこと、できることを、真剣に考えたいと思います。

ふるさとの大地から根こぎにされ、絶望の極みにある人々にしかわからない現実が、あります。しかし、恐怖と不安のただ中にいる人には直視できない現実も、あります。福島、日本、世界・・・現場から距離を置いて暮らす人間にできるのは、他者への想像力を研ぎ澄ますこと。そして、他者に思いをいたしながら、指を自身に向けて「何ができるか」を問い、小さくてもいい「何か」を始め、続けること。「世界から福島へ」のエネルギーの凝縮はいずれ、「福島から世界へ」の逆照射となって地球を包むことでしょう。

藪原秀樹さんからのメッセージ

「この事故が終息しない限り、福島の復興は始まりません。日本の明るい未来もありません。福島を第二のチェルノブイリにしないために、福島のネガティブイメージを徹底的に払拭したい。そのためには、一日も早い、福島の完全安全宣言が欠かせません。

福島第一原子力発電所で今も闘いつづけている所員の、精神面の安定とモチベーションの維持が、そのお役に立つと信じて、事故当時の福島第一原子力発電所所長だった吉田昌郎さんの許諾のもと、10カ月にわたり福島へ通いつづけて、彼らの思いを受けとめつづけてきました。

私にできる最大の貢献が、全身全霊で「わもん」を重ねていくことです。これからも、福島復興のため、日本の未来のために、『わもん』でお話を聞きつづけていきます。」

「わもん」とは？

話を聞くことによる自己修養法です。絶対尊敬(ぜったいそんけい)、完全沈黙(かんぜんちんもく)を基本とし、話聞一如(わもんいちによ)に至ることをめざして、話し手の話を徹底的に聞く修行です。聞き手は話し手の心の奥底にある「声なき声」を聞き、話し手の気づきや自己成長を手伝います。また、話し手の気づきから自分自身の気づきを得て、みずから成長していきます。最終的には、自分の「声なき声」を聞き、みずから修める「自己わもん」を目標とします。藪原秀樹によるコミュニケーションの実践にもとづいて提案された修行法で、2007(平成19)年、正式に命名されました。



藪原秀樹

1963年1月、徳島県生まれ。大阪府在住。株式会社わもん代表取締役、人材育成コンサルタント。20代で西洋哲学を、30代で東洋哲学を学び、40代で東洋哲学と西洋哲学を融合させた「わもん(聞くことによる自己修養法)」を完成させる。人の能力を最大限に引き出す「わもんコンサルティング」が反響を呼び、現在は行政・企業のコンサルティング、人材育成研修、講演等を行っている。聞き方教室「わもん塾」を全国で展開中。趣味はマラソン。故郷の阿波踊りには毎年参加している。幕末の志士中岡慎太郎をこよなく愛し、高知県に行くたびに中岡慎太郎館を訪れている。著書『わもん～聞けば叶う』(文屋)。

【ホームページ】<http://www.wamon.co.jp/>
【ブログ・ヤブログ】<http://www.yablog.jp>
【メールマガジン・やぶプレス】<http://www.mag2.com/m/0000277522.html>

総合司会
藤田学 東京都・町田市議会副議長

コメンテーター
小西勝 長野県・小布施町副町長

吉田昌郎(ビデオ出演)

1955年2月、大阪府生まれ。東京電力福島第一原子力発電所前所長(執行役員)。所長在任中の2011年3月に東日本大震災とそれに伴う福島第一原子力発電所事故が起こり、現場で対応に当たった。現在、病氣療養中。

花堂純次

1955年12月、宮崎県生まれ。東京都昭島市在住。映画監督。代表作・TVは「失楽園」「永遠の仔」、映画では「夢追いかけて」「あなたを忘れない」など。3.11の震災後、宮崎や九州各地のボランティアリーダーとして宮城県気仙沼市に3ヶ月常駐した。キャンドルアートを通じて各地と被災地を結ぶ「命の灯火プロジェクト」を立ち上げ現在も活動中。古武術をこよなく愛す。

清水慎一

1975年1月、長野県伊那市生まれ。東京、パリ、熊本での修業を経て、菓匠 Shimizu シェフパティシエに。NPO法人 Dream Cake Project 理事長。モットーは「菓子創りは夢創り」。2006年より、子どもたちの描いた夢の絵をケーキにしてプレゼントする「夢ケーキの日」を開始。菓子業界のみならず各界から注目を集める。3.11後、被災地に向いて子どもたちに夢ケーキを贈りつづけている。著書『世界夢ケーキ宣言!～幸せは家族だらけ』(文屋)。

文屋座は、信州・小布施の出版社「文屋」が主催する、書き手と読み手と作り手の、出会いと学びと語らいの場です。どなた様もお気軽にご参加いただけます。お問い合わせ、おいください。

<お申込み方法>

文屋公式サイトからのお申込みが便利です。メール、郵送、電話でもどうぞ。お申込み後、参加費お振込先をお知らせいたします。参加費の払い戻しはいたしません。お申込みのご本人様が参加できないときは、ほかの方にお譲りいただけます。その場合、キャンセルのご連絡とともに、ご参加くださる方のお名前、連絡先などをお知らせください。

文屋
bunya

〒381-0204 長野県上高井郡小布施町飯田45
TEL: 026-242-6512 050-8600-1714 FAX: 026-242-6513
e-mail: bunya@e-denen.net
<http://www.e-denen.net>

福島テルサ案内図

〒960-8010
福島県福島市上町4番25号
TEL: 024-521-1500
FAX: 024-523-4115
福島駅より徒歩10分
福島西ICより車で20分
福島飯坂ICより車で15分

